

柘植地域 まちづくりだより 第181号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
(柘植地区市民センター内)

三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地

〒五一九一四〇二

電話 四五―八八八〇 FAX 四五―八八八三

発行日 二〇一七(平成二十九年)一月一日(日)



新年のご挨拶

協議会会長 阪井 則行



新年あけまして
おめでとうございます。
ございます。

皆様におかれましては、よいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、まちづくり協議会の諸活動にご支援、ご協力頂きまして深く感謝申しあげると共に、引き続き今年も宜しくお願い致します。

さて、昨年11月に市長選挙が行われ、岡本市政の継続が選択されました。その中で市は第2次総合計画・再生計画の中間案を発表し「ムダのない財政運営、市民目線・市民感覚による姿勢」を基軸とし「ひとが輝く・地域が輝く伊賀市」を実現すると書かれています。

一人ひとりが
ふれあい
生き生きと
支えあい
みんなの
暮らし
暮らそう
柘植

柘植まち協も昨年、過去5年間の『まちづくり計画』の自己評価をし、すでに配付しました(9月15日付)。

その中には、「各部会が計画を立案し事業の実行をするという流れが進めやすかったという面がある一方で、地域全体の課題に対してまち協総体として力を注ぐことが不十分だった」という反省もさせていただきました。また市行政からの多くの課題や働きかけに12区挙げての議論が不十分で地域総体としてのまとまりを作ること容易ではなかったと反省しております。

現在、新『まちづくり計画』の策定は予定より遅れてはありますが、各区住民の立場からも将来像が描きやすくなるように、また柘植地域にとってその事業が必要なのか、どのようなまちづくりをめざすのかという、大きな方向性を住民相互で共有できるようにしていきたいと考えております。

旧柘植保育園の跡地利活用の問題ですが、検討委員会を設けて柘植地域内から広く意見要望を聞き、各種調査や関係者からのヒアリングを実施し、市行政とも意見交換を行う中で、地域の皆さんに喜ばれる施設となることを目標に、高齢化社会にマッチした2団体による使用の方向で目途が立ってまいりました。

また、大切な情報の伝達・共有につきますは、月2回発行のまち協だよりに加え、新しくホームページをリニューアルしました。

スマートフォンでも見ることができ、ぜひアクセスしてください。

今後市行政・まち協・各区が連携する中、軸として頑張っていく所存です。皆さんの一層のご理解とご協力をお願いしまして新年の挨拶いたします。

ごらんになっていただきましたか?
柘植地域まちづくり協議会<公式ホームページ>
スマホ対応です。お知らせ情報などを中心に掲載していきますので、ご利用ください。
http://tsuge@jpn.org

これからは、ガバナンスがキーワード



年頭のご挨拶

伊賀市長 岡本 栄



あけましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から、市政各般にわたりご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

人口減少、少子高齢化社会を迎え、財政規模の縮小が予測される中、持続可能な伊賀市、地域の個性や特性を最大限に活かしたまちづくりが求められています。

先の市長選挙で、子ども医療費の窓口無料化など「子どもは伊賀の宝」、移住・交流の促進、伊賀の特色を生かした企業誘致など「誇れる伊賀、選ばれる伊賀づくり」、市民病院の経営健全化や医療福祉の連携など「住み続けたい伊賀づくり」、南庁舎のリノベーションや歴史と文化を活かしたまちづくりなどに

わいを取り戻す」の4つを公約に掲げました。

現在、「『人が輝く 地域が輝く』伊賀市」を実現するため、平成29年度から向こう4年間を計画期間とした「第2次伊賀市再生計画」の策定を進めています。この計画の3つのテーマとして、「ガバナンスの確立」、「市政再生」の深化・進展、そして「誇れる伊賀市」の選ばれる伊賀市」を掲げています。

市の将来像を実現するには、行政による取り組みだけでなく、多様な主体が当事者意識をもって、目標を共有し、協働することで、地域を育む取り組みを継続的に行っていくこと(ガバナンス)が重要となります。また、「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸に、分権型のまちづくりに向け、スピード感と市民目線を持って引き続き取り組みたいと考えています。

そういう意味では、市としましても、地域の活動が、更に充実するよう支援していく所存ですので、皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。結びに、柘植地域の皆様のご健勝、ご多幸を祈念致して、新年のごあいさつと致します。

活気あふれるまちづくりを地域の力と知恵で



新年を迎えて...

伊賀市議会議員 森岡昭二



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、日本列島、地震と台風に見舞われた一年でありました。4月に熊本地震、8月には台風で東北・北海道地方で風水害に、10月には鳥取地震と甚大な犠牲と被害が出ました。

私たちの住む地域においても、災害や地震がいつ発生するかわかりません。昨年10月には、まちづくり協議会主催で各地区で、ないしは避難所ごとに、災害にそなえて自主防災訓練が実施され、大きな成果をあげられた事と思います。毎年こうした訓練を通して、災害に強いまちづくりを築き上げていかなければならないと思います。福祉の分野においては、2025年問題があります。団塊世代の方々が75歳になり、医療・介護・年金等社会保障費がピークに達し

ます。行政においては、この対策に今から取り組まなければなりません。

地域においては一人ひとりが互いに支え合い、力を合わせ、知恵を出し合い、地域での活動を進めていかなければと考えます。

まちづくり協議会の役割は、まさにここにあると思います。

今年も精力的に諸活動を展開していただきまして、活気あふれるまちづくりにご尽力下さいますようお願い申し上げますと共に、今年も柘植地域の皆様方のご健勝とお幸せを心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



学校と地域が協力して、

これまでの成果を

次の取組みに：

12月10日(土)午後、あやま文化センターで、三重防災・減災センターほか主催(伊賀市共催)の「みえ地震対策の日シンポジウム」が開かれました。

鈴木県知事・岡本市長の挨拶、基調講演、防災教育の取組み紹介などの後、「地域と学校で防災力を高める」と題したパネルディスカッションにおいて、

自主防災実行委員会

～熊本地震から学び、地域と学校の連携を考える～



パネルディスカッション(あやま文化センター)

柘植地域自主防災実行委員会の服部文昭さんがパネリストとして参加、柘植地域からも大勢が客席から応援し研修を深めました。

パネリストとして参加した服部さんの感想を次に紹介します。

これまで諸先輩方が取り組んできたまちづくり協議会総体や自主防災実行委員会としての活動の一端を会場に越しの皆様に紹介できました。地域での自主防災活動をより進めていくため

に、学校との連携は欠かせないものであることを改めて認識できました。来年度は、各区新しい体制での防災組織が始まることとなります。これまでの成果と課題をふまえて、各区・柘植地域として対策を考えていきたいものです。

みんなでつくろう 安心の街 防犯冬の陣!

伊賀地区防犯協会伊賀支部では、12月21日午後、年末恒例の防犯パトロールをいがまち3地域が協力して実施しました。警察とともに、柘植・西柘植・壬生野のいがまち3地域を巡回し、写真のように店頭での啓発もしました。

最近、空き巣・忍込みといった住宅対象犯罪が増加しています。ご自宅の防犯対策を見直し、防犯設備の追加等を見ましよう。



伊賀のつげまる

販売好評

特産品創出実行委員会



ビジネスにふさわしい状況が作れてきました。

また、「雇用」についての取組みも少しですが前進しました。今後、初期の目的である地域活性化に向けて、農業商業を軸にコミュニティビジネスの研究を進めます。

12月24日、黒豆販売を行いました。みなさんから多くの予約注文をしていただいたおかげで、収支計算もしやすく、この一年で、

第12回伊賀市民スポーツフェスティバル

結果報告

11月6日の大会には、柘植地域を代表して、ゲートボールチームとグランドゴルフ(男子)チームが出場しました。健闘ふるわず入賞はなりませんでした。楽しく出場できました。

今後、地域として参加体制をどのように整えていくかが課題であり検討していく予定です。

スポーツ推進委員

ご支援ありがとうございます



統計は、「現在」を知るとともに、「過去」を振り返り、「将来」を見定めるための重要なもの。このデータをもとに、ちょっとした話し合いが地域の各所で進むことを期待します。(事務局)

★★★事務局だより★★★

▼伊賀市内には38の住民自治協議会があります。それぞれ地域の人的資源・自然条件・交通条件・歴史文化などの違いにより、これまでの経緯や取組みにはかなりの違いがあります。▼実は柘植地域内にある12の区においても、区幹部の選出方法、会計処理の仕方、行事のありようなど、いろいろと違いがあります。▼自分の区では「当たり前」と思っていることでも、意外にお隣の区とは違いがあることに驚くことがあります。▼私たちの「柘植地域まちづくり

協議会」では、そうした違いを認め合い、理解し尊重しつつ、12の区のお互いの良いところを出し合い取り入れ合って、10年あまりの歴史を刻んできました。▼「人口減少」・「逆三角形の人口構成」・「財政不足」などといった時代背景の下、運命共同体として、区を超えた連携・交流を進めてきたところで

す。▼区はもとより柘植地域全体がよりよいまちとなっていくように仕事をするのが、「まち協」の存在意義であり役割です。▼いまや「下り坂」一辺倒の時代情勢…。しかし、それを嘆くのではなく、現実を受け止めることで、本当に必要な取組みを見極め、スクラップ&ビルドをしていくことが欠かせません。▼あらゆる組織において、「行事の棚卸し」ということが真剣に考えられていく時代です。▼各区をベースに柘植地域として一丸となつて難局に立ち向かうために、今年も「まち協」はチャレンジしていきます。▼まちづくり活動に建設的に参画していくこと…。▼それが、この地に住む私たちの地域文化になることを願って、事務局からの新年メッセージといたします。今年もよろしくお願ひします。(西田方計)

地域の現状をデータで見ると...

新年に当たり柘植地域の将来を考える材料にしてみてください!

★下表のデータは、伊賀市ホームページで見ることができます。

データは外国人や区入りされていない方等を含んだ総数です。

柘植地域の基礎データ

H28年11月末現在

字名(区名)	世帯数	人口	男	女	高齢化率	
東部	岡鼻	72	171	89	82	42.5%
	小林	193	409	210	199	45.9%
中部	柘植青葉台	138	337	168	169	20.7%
	上町	103	284	137	147	39.5%
北部	下町	146	355	168	187	42.0%
	倉部	110	289	140	149	40.1%
南部	小杉	92	290	139	151	37.8%
	山出	64	169	78	91	45.9%
西部	前川	232	519	247	272	33.8%
	上村	44	134	65	69	40.6%
柘植地域合計	野村	71	211	100	111	41.2%
	中柘植	155	386	191	195	37.8%
柘植地域合計		1,420	3,554	1,732	1,822	平均38.2%
昨年同期比→		25増	28減	13減	15減	0.9%増

※高齢化率はH28年9月末現在 65歳以上人口 1,357人(9月末)